

### Rhif 1. 吉岡 治郎 : Catgi

6世紀のウェールズの詩人 Aneirin の作とされている *Y Gododdin* (この作品については、現在、注解ならびに試訳の準備中であり、詳しい説明はここでは省く) の Jarman によるテキストの l. 246 に次のような詩行がある。Dau gatgi Aeron a Chynon daerawd (= The two battle-hounds of Aeron and Cynon returned). ここで問題にしたいのは、'gatgi' という単語である。この語の辞書に収録されている形は 'catgi' である。ケルト諸語では語頭子音がいろいろな条件で変化を起し、それをレニションと呼び、'gatgi' もレニションを起した形である。この 'catgi' は、'cad' = battle, war (*Gèiriadur Prifysgol Cymru* では 'cad' の形で収録されている) + 'gi' (この語もレニションを起した形である) で構成されている。前半の部分に出てくる 'cad' は、ケルト諸語同根語のある語であり、この語の持つ意味からも推測されるように、中世の詩には非常にしばしば現れる語である。また、'cad', 'cat-' の形でいくつもの合成語の前半部となっている。後半部の 'ci' であるが、この語は印欧語にあっては非常に有名な語であり、同根語が印欧語族の主要な諸派の言語に存在する (ヒッタイト語、トカラ語などにも存在する)。意味のところにも出した hound も、もちろん同根語である。ゲルマン語では、語頭音がすべて「グリムの法則」により、'h-' に変化している (Latin 'canis', Gr. 'kúon', Toch. AB 'ku', Germ. 'Hund')。この 'catgi' を *G.P.C.* で引いてみると、war-dog, warrior; mastiff, bloodhound とあり、この個所が引用初例となっている。ここで注意を喚起しておきたいのは、'warrior' という意味のあることである。アイルランドのアルスター物語群に登場するもっとも重要な英雄であり、英文学系の方々にもよく知られている Cu Chulainn (The Hound of Culann) [クー・フリン] の 'Cu' のところも、もちろん同じ語である (Cu Chulainn についての簡潔な説明としては、『ケルト事典』を、また、神話・伝説との関連については、Green, J. M. の *Dictionary of Celtic Myth*

*and Legend* を参照されたい)。

Shakespeare の *Julius Caesar* の 3 幕 1 場で、Caesar が殺されてから後、Marcus Antonius が死せる Caesar を悼む言葉のなかに、let slip the dogs of war という表現が出て来る。dogs of war あるいは let slip the dogs of war は、英和辞典にも姿を現す有名な表現であるが、dogs of war というのは、「戦争のもたらす災害」の意味である。Dogs of war という名の映画があったように記憶するが、はっきりしない、御教示を乞う。